



タイトル TED トーク
世界最高のプレゼン術【実践編】

原 題 HOW TO DELIVER A
TED TALK

著 者 ジェレミー ドノバン
Jeremy Donovan

訳 者 なかにしま ゆみ
中西 真雄美

出版社 新潮社

発売日 2015年4月15日

ページ数 317頁

本書は、2013年7月に刊行されたジェレミー・ドノバンによる「TED トーク 世界最高のプレゼン術」【基礎編】に続く、【実践編】である。

TED もここ数年で日本でも一気に知られるようになり、ご覧になった方も多いと思う。NHK でも、E テレで、「スーパープレゼンテーション」ナビゲーターに MIT メディアラボ 所長の伊藤 穰一 氏、ナビゲーターに女優の吹石 一恵 氏、ナレータに Owen 真樹 氏を起用し、毎週水曜日の朝 6 時から 25 分間の放映を行っている（NHK の案内では、放映時間帯が異なるが、その辺の事情は分からない）。

【基礎編】は、「TED トーク中毒者」を自称する著者が、何百本もの TED トークを分析した結果をもとに、人気 TED トークの秘密を明らかにし、聴き手にインスピレーションを与えるスピーチのノウハウを紹介したいという思いから、自費出版した本だという。

【基礎編】は、やがて大手出版社のマグローヒル社の目に留まり、その【実践編】が 2013 年 10 月に新たに刊行された。このあたりの経緯は、本書の謝辞に詳しく記されている。

さて、さっそく目次を見てみよう。

リチャード・セント・ジョンによるまえがき
序章

第 I 部 内容

第1章 広める価値のあるアイデアを選ぶ (Hint 6 個)

- 第2章 トークを構成する (Hint 6 個)
- 第3章 ストーリーを語る (Hint 18 個)
- 第4章 キャッチフレーズを作る (Hint 5 個)
- 第5章 スピーチのはじめ方 (Hint 7 個)
- 第6章 スピーチのつながり (Hint 3 個)
- 第7章 スピーチの締め方 (Hint 4 個)

第II部 伝え方

- 第8章 感情を伝える (Hint 3 個)
- 第9章 言葉の力を高めよう (Hint 7 個)
- 第10章 ユーモアを盛りこもう (Hint 8 個)
- 第11章 スピーチを成功させる言葉の使い方 (Hint 4 個)
- 第12章 身体を使ったコミュニケーション (Hint 5 個)
- 第13章 ステージ上を動くテクニック (Hint 3 個)

第III部 デザイン

- 第14章 印象に残るスライドの作成 (Hint 3 個)
- 第15章 ビデオの効果的な使い方 (Hint 3 個)
- 第16章 小道具をどう使うか (Hint 3 個)
- 第17章 演台をどう使うか (Hint 4 個)
- 第18章 ステージで成功するための服装 (Hint 3 個)

第IV部 ステージに立つまでの道のりとその後

- 第19章 TED プレゼンターになるには (Hint 3 個)
 - 第20章 恐怖心を克服しよう (Hint 3 個)
 - 第21章 スピーチを成功させる「紹介」の秘訣 (Hint 2 個)
 - 第22章 あなたの TED ビデオが多くの視聴者を得るために (Hint 2 個)
- サイモン・シネックによるあとがき
訳者あとがき

本書は、4部構成で各章にヒントがあり、全体では105のヒントで構成されており、プレゼンテーション（以下プレゼン）で何時も苦勞している人達にとって、各部、各章とそこにある各ヒントは大いに参考になるはずである。

少し中身を覗いてみよう。

第5章「スピーチのはじめ方」のヒント40に、「聴衆に考えて欲しいときは、質問で始

めよう」がある。例えば、このように！

どうしてアップルはあかも革新的でいられるのか？

毎年毎年、ライバル企業のどこよりも革新的であり続けている。でも、アップルはただのコンピュータ会社だ。他の会社とたいして変わらない。他社と同じようなルートで同じような人材を集め、同じような代理店や、同じようなコンサルタントや、同じようなメディアを使っている。

なのに何故アップルには他と違う何かがあるように見えるのだろうか？

マーチン・ルーサー・キングはなぜ公民権運動を推進できたのだろうか？公民権運動以前のアメリカで苦しんでいたのは彼だけではないはずだ。当時のすぐれた演説家は彼一人ではない。なのになぜキング牧師だったのだろうか？

ライト兄弟はなぜ有人動力飛行を実現できたのだろうか？

彼らよりも優れた人材と潤沢じゅんたくな資金を集めていたチームでも実現できずにいたのに。ライト兄弟が他を出し抜いて成功したのはなぜだろう？

そこには何か別の要因が働いていたはずである。……。これは、サイモン・シネック「優れたリーダーはどうやって行動を促すか」からとったものである。

この質問は、本来一つで充分である。それなのに、シネックは聴衆に対し、あえて続けざまに「なぜ」の砲火を浴びせている。

著者に分かったことは、アップルも、マーチン・ルーサー・キングも、ライト兄弟も、全く同じやり方で考え、行動を起こし、またそのやり方は他の人たちの正反対だったというのである。

先話を聞いて、聴衆は「これからアップル・コンピュータやマーチン・ルーサー・キング、ライト兄弟について何か話が聞けるんだろうな」と思いながらスピーチを聞き始め、やがてそれを聞くことになる。

多くのプレゼンターは、聴き手にこれから話すことをとりあえず教えてしまうという乱暴なアプローチを取りがちである。サイモンがこの罠に落ちていたとしたら、オープニングはこんな風になっていただろう。「今日は皆さんに、アップルやマーチン・ルーサー・キング、それにライト兄弟についてお話ししようと思います。ではまず、アップルから……」

これでは、つまらない！ 質問の中に、自分のプランを巧妙に隠すことで、サイモンは他のプレゼンターたちが学ぶべき非常に洗練されたアプローチを成功させている。……。

さて、TED は Idea worth spreading (広める価値のあるアイデア) の精神のもとに、様々な分野の第一線で活躍する人物を招いて、定期的なカンファレンスを開催しているグループである。

このカンファレンスの模様は、TED Talks という動画アーカイブとしてインターネット

で全世界に無料で公開されている。また、この動画アーカイブは、アプリを利用して、iPhoneなどのスマートフォンにダウンロードしておけば、通信環境を気にせずに高画質・高音質の動画をいつでも楽しむことができる。

第1章では、TEDに登場するプレゼンターを3つのカテゴリーに分類し、さらにその社会的役割によって15のグループに分けている。

プレゼンの参考にしたい場合にも、ただトークの動画を視聴したいという場合にも、この分類は大いに役立つはずである。

第2章で著者は、トークには「ストーリー主導型」と「前提主導型」があるとし、おおかたの予想に反してほとんどのトークは「前提主導型」だといい、これについては、全編を通じて、何人かのプレゼンを表を用いて具体的に説明する。

TEDと聞いて、「どうも、英語は苦手だ」という人も、TEDトークは、インターネット上のTEDサイトで日本語のスク립ト付きで視聴することができるので英語が苦手な人でも安心して視聴することができる。

日本開催のTEDはTED*Tokyo、TED*Sendai、TED*Kyoto、TED*Sannomiyaなどで開かれており、茂木健一郎氏もKen Mogiという名で参加している。

TEDトークからプレゼンテクニックを学ぶ最大のメリットは、動画の力を借りられるという点である。ご存知のように動画の力は絶大だ。本書では、いくつかのトークの構成を分かり易く表にまとめているので、トークを組み立てる際に大いに参考になる。

プレゼンを何度かやった経験のある人たちには、ストーリーの組み立ては大変だということはご存じのはずだ。発表者が多い日本の理系の学会発表会などでは、持ち時間は大抵の場合15分である。ストーリーの語り方は第3章に出てくるが、TEDの講演は大体平均で18分（5分～20分程度）しか与えられないのでストーリーの組み立てをみても、理系などの学会発表会のプレゼンテクニックは大いに参考になるはずである。

「次世代のハーバード」とまで言われるTED。そもそも、TEDとは、「技術」(Technology)、「教育」(Education)、「デザイン」(Design)それぞれの英語の頭文字をとった略語で、毎年アメリカのカリフォルニア州ロングビーチで開催されるTEDという会議の名前だ。

ここでは、マイクロソフトのビル・ゲイツや進化生物学のリチャード・ドーキンスなどの著名人がやってきて短いスピーチをする。

このTEDはある意味で、日本の「講演文化」に対する「黒船」の襲来だとも言われている（アクセスは「<http://www.ted.com/>」へ）。

英語の得意な人はそのまま、苦手な人は、映像数は少し減るが日本語、フランス語を始めとして、多くの言語による「字幕」もついているものがよいだろう。

「TED」の過去の映像を見てみると、結構面白いものがそろっている。評者が見て面白かったもので、日本語の字幕のついているものをいくつか拾って紹介しよう。

- ・ジェームス・キャメロン 「アバター」を生み出した好奇心。映画「アバター」の監督。
- ・ビル・ゲイツ 「ゼロのイノベーション」 ゲイツエネルギーについて語る。マイクロソフト社の共同創業者・会長。
- ・チャールス・アンダーソン 「海を越えるトンボとの遭遇」。 海洋学者 日本でもよく見かけるウスバキトンボの話で、楽しそうに話しているのが印象的だ。
- ・エイソー・ベンダーが実現する「超人ハルク」。人間の筋肉の代わりにするロボットの話。システムが暴走した時が心配ですね。
- ・ジュリアン・アサンジ なぜ世界に Wiki-Leaks が必要か。
- ・アル・ゴア 元大統領が気候の傾向を警告。
- ・スーザン・ブラックモア 「ミームとテーム」 「ミーム・マシンとしての私」の著者で、ドーキンスのミーム理論をさらに推し進めた心理学者。
- ・アリサ・ミラー ニュースのニュースについて 報道の量を地図の面積で表示。これは面白い。
- ・ジークフリート・ウォルドヘック レオナルド・ダ・ヴィンチの本当の顔。こんな手もあるのは驚きだ。
- ・ダニエル・デネット 危険なミーム 哲学者 考え方に沢山のヒントがある。
- ・アラン・ケイの考える 「アイディアについてのすべてのアイディア」。プレゼンテーションが上手い。
- ・ビョルン・ロンボルグは世界の問題に優先順位をつける（「環境危機を煽ってはいけない」の著者）。早口なのには驚いた。
- ・リチャード・ドーキンスが語る 「奇妙な」宇宙。「盲目の時計職人」、「神は妄想である」などの著者 動物行動学者、進化生物学者。

など面白い話の他にも、それは気付かなかったなというような話、考え込んでしまうような話など盛りだくさんだ。時間にして3分~15分程度なので、インターネットにアクセスしたら、必ず一度は覗いておこう。きっと、頭の体操になる筈だ。

TED を覗くと、「海外留学が出来なかった人」や「海外出張がこれまでになかった人」などにはお勧めだ。海外でのプレゼンテーションは大変参考になるし、話し方、間の取り方など成功例、失敗例も合わせて大いに参考になる。その場の雰囲気や直接伝わってくるころも良い。

その他、TED から中学・高校の英語の授業で手頃なテーマを1つ選んで、生徒たちと映像を楽しんだ後、英語で討論させるというのも良い刺激になるはずだ。中学・高校の英語の先生方は是非検討してみては？

2015.5.15